

【女性リーダー養成セミナー】カリキュラムのねらいと構成

1 女性リーダーのマネジメント（講義）

女性リーダーのマネジメント、仕事と家庭の両立の課題や乗り越え方について、自らの体験を交えながら話し、参加者との対話を通して考えます。

（講師）菊地 敦子 公務人材開発協会代表理事。36年勤続。人事院公務員研修所長、人材局長などを歴任。

2 ロジカルシンキング（講義と実習）

リーダーとしての立場を自覚したうえで、関係者を動かしながら問題を解決するために不可欠なロジカルシンキングの基本を習得します。自らの思考を整理するとともに、他者に対してもわかりやすく説得力をもって伝えるためのスキルを強化します。知識の学習に留まらず、実践的な手法を体験的に習得することができます。

（講師）福泉 裕 公務人材開発協会講師。旭硝子（現AGC）勤務を経て、ビジネス・シンフォニー代表としてコンサルティングに従事。中小企業診断士、1級販売士。

3 日本の課題を考える～休み方改革～（講義・グループ討議・全体討議・総括）

「働き方改革」とは「休み方改革」でもあることに着目し、来たるべき少子高齢化社会に向けてワークライフバランスをいかに図るかについて、スウェーデンの例などを挙げながら考えます。現在の働き方についての課題を踏まえ、一人ひとりが可能な限り、自らの意思と能力に合った働き方、自分が望む休み方ができる施策、仕事改革について、事前に自分の考えをまとめて持ち寄り、グループ討議、意見交換を行います。

（講師）秋朝 礼恵 高崎経済大学経済学部教授。人事院の国際専門官などを歴任後、大学院で学び、2011年に高崎経済大学講師。専門は福祉国家論、比較福祉政策論、地域研究（北欧）。「福祉社会の発展と観光—スウェーデンを事例として」『福祉国家の観光開発』（彩流社）など著作多数。

4 自分自身のリーダーシップを考える～信頼の醸成～（講義と演習）

○ リーダーシップとは

○ リーダーシップと信頼関係

リーダーシップ発揮の「土壌」を作ることの大切さを学習する。

時代の変化や人々の要請に応じていくには、それぞれのポジションで、自分自身がリーダーシップを発揮していくことが必要だという、基本的な認識と覚悟を持つ。

5 自分自身のリーダーシップを考える～つながり力を高める～（講義、演習、ワークショップ）

○ リーダーシップとコミュニケーション

指導・育成・モチベーションを生み出すコミュニケーションについて理解する。

○ ケーススタディ

この職場がなぜ高いつながり力を持ち、高い成果を生み出すのかについて考える。

○ リード・ザ・セルフ&自分のコミットメント

組織の中での自分自身の行動で組織の活性化、意識変革が可能になる。自分自身が変わらなければ、組織も変わらないということに気づく。

自分が考え、これから行動していこうと思うことを発表する。

（講師）河合 太介 早稲田大学大学院経営管理研究科非常勤講師。株式会社 道（タオ）-人と組織のマネジメントの研究所代表取締役。ファーストリテイリングが中小企業だった頃から現在まで同社に助言するなど、コンサルティング経験豊富。ベストセラーとなった「不機嫌な職場」（講談社）を始め、著書多数。